

NPO 法人ウッドデッキ設立記念シンポジウム報告

NPO 法人ウッドデッキ設立記念シンポジウム「世代間ギャップをどのように埋めるのか」は、2022年12月12日に総合地球環境学研究所での現地参加とオンライン参加を使ったハイブリッド形式で開催されました。現地で16名、オンラインで約60名の参加があり、世代間ギャップについての問題共有や問題解決の方法について討議を行いました。

シニア世代、中堅世代、若手世代の代表が話題提供を行い、その後参加者全員がメタバースでアクティブディスカッションを行ない、最後に総合討論によって世代間ギャップの解消のための方策を考えました。

国際教養大学理事長・学長であるモンテ・カセムさんは、シニア世代として長くアカデミアに身を置く立場から、論理的な思考に基づく思い切った行動が必要であること、情報通信技術の発展の中で自立性が重要な要素であること、これからのAI社会では人間性が問われることになると述べられました。

島津製作所分析計測事業部マネージャーの寺本華奈江さんは、中堅世代として上司に学ぶことが多く、また現場を知ることも重要で、その上で自分自身で考えることがキャリア形成に必要であると話されました。

東京医科歯科大学テニユアトラック准教授の楠山譲二さんは、若手世代として、若手研究者が支援されているのは事実であるが、それがむしろプレッシャーにもなり、また国際化などが求められてはいるものの、その定義が曖昧な中で目標を設定するのはなかなか難しいとお話しされました。

その後、メタバースによって参加者全員で1対1、もしくはグループで1時間ほど議論が行なわれました。初めてメタバースを体験した参加者も多くいました。

最後に総合討論を行い、まずメタバースによる交流の是非について討論しました。アバターで身元をわからなくすれば、立場に関係なく対等に議論ができるのではないか、という企画段階での発想がありました。しかしながら、このシ

シンポジウムでは声まで変化させるのは難しく、完全に身元を隠して議論することはできませんでした。完全なアバターができるようになり、ルールを遵守できれば、本音で議論できる有効なツールではないか、という意見が多数となりました。また、メタバースによる議論はきっかけとしてはよいものの、対面での時間をかけて議論することが重要だという意見もありました。

次に、総合的な能力を養うことについての議論がなされました。一見無駄と考えられるようなことも、それが経験となることは事実です。しかしながら、本当の意味の無駄を省く必要はあるとの意見となりました。

総合力を養うには経験も必要ですが、経験が必要であることを若手研究者が感覚的に理解するのは難しいかもしれません。ですので、シニア世代は自身の経験などを例としてわかりやすく説明し、また若手研究者は直接的な効果が得られるか、効率的であるかという考えから一歩離れ、経験から得られる様々な要素を体験することが大切なようです。

このようなことを考えると、本シンポジウムでは、コミュニケーション、幅広い経験、論理的思考が重要であることが再確認できたと言え、これらの重要なことについて、世代を超えたグループで行うことが、世代間のギャップを埋める第一歩であることが改めて示されたと考えています。

開催後のアンケートでは、「大変よかった」が52%、「よかった」が36%、「やや物足りなかった」が12%という結果になりました。



講演者3人



シンポジウムの様子



パネル討論の様子



シンポジウム参加者